

12-11right_12-11left.JPG 2018/11/30

12-11right

蓮沼勘より小あぢ老籠程贈り来る、此の不足を補ふの意口上添ふ、同人儀横地六隠居久同道来り、金融筋の儀、□□る程追て改め申入る趣也、此の為持遣せし義雄への雁書至近の便無しとてまた空敷(むなしく)持帰る

三日卯 雨午下晴雨数変 一時持返りし義雄雁書東金飛脚屋へ出す

四日辰 薄陰終日

沼津より五郎来る霜糖一袋贈らる一泊

五日巳 薄陰

□度八十度(撰氏 26.7度)

常司方の馬を借り、五郎を楽極寺²村迄送らす、牧田貞□移²の賀として鯉ぶし二方贈り遣す、桃許多(あまた)、謝せらる

12-11left

六日午 薄晴

七夕祭彩第²竿を捧(ささ)ぐ、仙蔵方より茄少許□越す桃を□ふ、久松小弥来り浴衣地並錦

絵

を持来、酒飯を□設く(*)、写真□院絵を添へ貸し遣す、観音寺金融筋の頼あり

七日未 陰午前雷雨漸薄晴

常司方より餠(あん)団子贈らる、右□ふるに桃を以てす

八日申 晴漸に薄晴遠雷

蓮沼勘来り金融の儀、再□□の空敷諾し²□、義雄方より衣類袴等一袂届く、木田

善八なる者持来す²、叔母常司□□叔母より有平糠一折、団扇(うちわ)二柄、常司より羊糕

一 □贈らる且

尾張屋物より暑尺物²団扇三の洋織袷地に届き、並何ら利金差越す、常司より□□質方

*1:設(ま)く、あらかじめ準備する

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読はできません。